

「明日 (domani) は大丈夫か」

坂口 裕靖

マスクと10万円、無事届きました。ちなみに川越市役所は「川越市特別定額給付金給付決定通知書」というのを別途郵送して来ました。まあ、本当に川越市役所が出てきたのか、委託（もしくは再委託、再々委託...）された業者が出てきたのかは不明ですが。

さて、東京アラートが発令され、解除され、解除された後、発表される感染者数は徐々に増えてきています。夜の街クラスターを調査してるとか、濃厚接触者を調べてるとか色々な状況はあるようですが、とにかく増えていきます。つまり、感染者数が減ったのは季節要因によって抑制されたわけではなく、外出自粛に症状の出ない感染者も外出を自粛することにより、結果として感染者の隔離と同じ状況が成立したため、感染者の増加を抑制できたということかと思えます。逆に言えば夏だからもう大丈夫とい

うことは全くなくて、現状残念ながら一瞬で治療できる方法論が確立されていない関係上、できることといえば罹患を避ける行動を取るしかないようです。カラオケスナックがクラスターを量産しているところを見ると、閉空間で大きな声で会話することは明らかに危険というか、意図的な攻撃ですらあるといえましょう。まあ大きな声でなくとも、密着した状態でこそそそ話をするのも危険なのは、接待を伴う夜のクラスターで明らかです。いずれにしろ、声を出さないことが重要なのは明らかです。でなければ、通勤電車で膨大な数の感染者を生産していることでしょうか。まあ、実は生産されていて見えてないのかもしれませんが、何百万という母数が仮にあるのであれば、もっと重症者が観測されそうですから、どちらに賭けるかと言われたら、黙ってれば特に危険はない、という判断の方に3ペリ

力。逆にいえば、喧々諤々の議論が交わされる職場であるのなら、そっちの方がはるかに危険ということになります。体育会系の威勢が良い営業さんが活躍するような会社は黄色信号ですね。狭い会議室も夜のクラスター同様に危険なわけですから、何らかの見直しは必要になるでしょう。狭い会議室を放置しているような企業の経営陣に対して、感染した従業員が、狭いオフィスを諾とする不作為について責任を追求するようになっていくと、オフィスの常識も変わっていくのではないのでしょうか。そういう案件を専門に扱う法律事務所が増えていくかもしれません。

ここで注目したいのは、接待と伴う夜の街において、ヴェール的なマスクがどれだけ効果があるかという点です。あれでうまくいくのであれば、通常の音量で会話するぐらいならもはや気にする必要はないとい

One Point BUZZ WORD

バッテリー

XV、初めての車検に出ました。冬の間、温度が低い環境でアイドリングストップを有効にしていると、信号待ちなどでアイドリングストップし、エンジンがかかるタイミングにて、アイサイトのクルーズコントロールが「切れる」、という事象が発生していました。通常、クルーズコントロールが有効な状態でブレーキを踏むとクルーズコントロールが「停止」状態となり、リセットすることで動作するようになりますが、この場合スイッチで切ったと同様にクルーズコントロールが無効な状態になるのがミソです。これ、マニュアルには記載されていない状態遷移なんです。

で、その後色々やってみたのですが、結局わかったことはアイドリングストップを有効にして、十数回程度エンジンを起動すると、なんか電流出力が弱くなるのか、以降エンジン起動に失

敗するようになるのでした。クルーズコントロールが切れるのはその副作用だったようです。スターターを回し切れないほど電流が足りないのなら、まあクルコン止まるのも仕方ないかも。映画Apollo13でゲイリー・シニーズ演じるケン・マッティングリー司令船パイロットが一生懸命やってた、アレです、アレ。でもバッテリーの警告ランプはついてないのがモヤモヤするところ。多分微妙なラインを行き来しているんでしょうな。車検のタイミングで詳しく調べてもらってはいるので、原因が判明すると良いのですが。

一方、会社のUPSがピーピー言うのでバッテリーを交換したら、最初に交換したバッテリーのケーブルがぶらぶらして抜けて動作せず。で、別の交換してもらって、これで安心かと思ったら、やはりピーピー言い出したという。こちらはコントローラ側がいかれてるのかもしれませんが。なんかこのところバッテリーとの相性が悪くて、トラブルに巻き込まれてるような気がする今日このごろ。くわばらくわばら。

うことになるでしょう。一方、やはりそれなりのマスクでないと、会話リスクを低減できないということになるのなら、オフィスに出勤するのはリスクを伴うということになります。このあたりについては早いところ結果が出てくると良いのですが、まあわかっても来月でしょうし、多分うやむやにされる気がします。

大きな企業ほど、積極的にリモートワークを採用しているでしょうから、オフィス街ではごっそりと人がいなくなっていることかと思えます。すでに単身赴任を解除する動きも出つつあり、「ノンローカル」かつ「ロケーションインディペンデント」な働き方への希求は増加する傾向にありそうです。こうして会社に人が集まらなくなると、会社周辺のエコシステムが大きな影響を受けるでしょう。会社に来ている人をあてにした店の殆どは人の出入りがなくなってしまうため、継続することが難しくなってしまうかと思えます。いずれ治療法が確立すれば、オフィス街の賑わいも戻ってくるでしょう。ただそれがいつ訪れるかは誰にもわかりません。それまでの間、ほそぼそとした来客で継続できるかどうかが問題でしょうが、なかなか難しそうです。会社周辺の様々なお店がみな継続できない状況となったとき、もはやそのオフィス街はインフラが整っていない状況に陥ります。そうなったとき、インフラがもたらす価値を失ったがためにオフィス街そのものが継続できなくなる事態が発生するかもしれません。そうすると、都会のお店によくある「人が来る前提」のお店は軒並み姿を消していくことになるかもしれません。食べ物について、できた料理を離れた時空に届けるノウハウは今現在コンビニ弁当まわりにしか存在しないわけですが、このあたりの追求が進んでいくのではないのでしょうか。もう一方の

先端部としてはカップラーメンに代表されるような「その場で作る」方向ですが、こちらは難しいかもしれません。お湯の流路を工夫することで、複数の具材を別々に戻すことができるようになれば新展開があるかもしれませんが、その追加コストが見合うかどうかは微妙かもしれません。それに、今現在カップラーメンはラーメンの一部ではなく、独立したカップラーメンという食べ物であるわけですから、即席なんたらが本家の再現を目指すこと自体はあまり意味がないのかもしれませんが。まずは飯とカレーと福神漬が同時に調理でき、汁気が混交しないインスタント食品あたりからですかね。なんか先は長そうですが、もしかしたら食品 3D プリンタが解決するのかもしれませんが。プラスチック鉱山の世界ですね。

大根一本買うとして、EC サイトで購入するのはちょっと躊躇します。たった 1 本しか注文しないその 1 本がハズレだった時のダメージを考えると、現物を確認してから買いたくなりますよね。これが大根 100 本買って、そのうち 1 本を使うのであれば、余程ひどい状況でもない限り、一本ぐらいなんとかなるだろうと思うので問題とはならないのです。一方でコーラとかジュースとかは工業製品であるという先入観があり、個体差が非常に少ないことがわかっているため、ここいらへんを EC サイトで購入するのはあまり気になりません。もっとも EC サイトで購入した後、いつごろ手元に届くのかは割と大きな問題で、今欲しい時には役に立ちません。その場合は手近な現物を購入しに移動することになるでしょう。多少待てるのなら、デリバリサービスを使うという手もあります。このあたりの微妙な心理的障壁があるので、当分の間地元スーパーの存在意義が薄れることはないでしょう。それどころか、一旦災害が発生した

時の物資補給能力を考えると、地元が存在する意義は高まるばかりです。実物を見る部分については VR とかで解決できる問題かもしれませんが、地元スーパーだからといって、その場に行かなければならないということもないでしょう。売り場をドローンが飛び回って品定めする未来、嫌いじゃないです。

こうやって行くと、最後に問題となりそうなのは体液の交換を伴う行為ですかね。これがなんらかの知り合い同士であるなら、それは想定されるリスクを互いに承知しているでしょうから、他人がとやかく言う話ではないのですが、問題なのは真っ赤な他人が交換なりしてその後二度と会うことがなかったりする点です。

そんなの、後から追跡しようにも追跡しきれないでしょう。住所氏名はおろか、下手すると性別すら不明なんだから。しかしそのあたりが実際には地下経済の本流だったりするわけで、そのリスクをテイクせざるを得ない人々は多々存在し、今もテイクし続けていると思います。最後にはこういった「裏の顔」を経由して、ふつふつと湧き出してくるのではないのでしょうか。これを行政やらが攻撃しようとするなら、まず矢面に立たされそうなのはラブホテル関連でしょうか。「天気の子」で描かれたラブホテル群がこれからも存在できるのかどうか、割と崖っぷちにあるんじゃないのでしょうか。銅像が引き倒されるニュースを見るにつけ、「天気の子」がこれからも理解可能な作品としてあり続けられることを切に願います(拝)。

Hiroyasu Sakaguchi
株式会社 IMAGICA Lab.